

刊夕日五十月六



定額一圓金... 廣告料五圓... 日曜祭日の翌日休刊... 發行所 常警新報社... 電話 六二〇〇

人生行路難の打解と孝道の作興

麻生 正 蔵

(三)

實業界の墮落と言ふのも亦國家其物の向上繁榮と國民全體の安寧幸福とを主眼とせず、唯各自の私腹を肥やすことにのみ腐心して居ることに歸着するのである。産業に就て言へば、その目的に於ては私の所謂公善増進をその主眼とすべきである。私は産業上の公善を三位一體善と稱して居る。産業の目的は資本主、労働者及び消費者の三方面の善を公正に實充増進するにあらねばならぬ。然るに、資本主は労働者を搾取し、又は消費者を犠牲に供するが如き利己的經營に狂奔し、労働者はその反動として、憎悪怨恨の情に驅られ、あらゆる反抗の擧に出で、遂には階級闘争をもつて、その指導原理として暴力をも利用して、利を謀るが如きは労働者自身の幸福を完ふする所以でないばかりでなく、勞資共衰共滅の邪道を辿るものである。さりとて、勞資兩階級が妥協して相互の利益を増進することにのみ苦心して、第三者たる消費者の福祉を犠牲に供する時

は、勞資兩者は正しく心中自殺を企て、居るのである要するに排他的自利生活は自存自榮の道でなく、自滅自亡の途である公善を目的とする共榮共存の道の外に自存自榮の道はないのである。而して實業をして墮落せしめ、階級闘争の修羅の巷と化せしめたのは、何であるか。言ふ迄もなく、それは政治界のそれと同様に主として利己的個人主義の病毒の然らしめた所である。思想の險悪化、特に我國青年男女の思想赤化の主因は前述の政治の腐敗と實業の墮落とであると考へられて居る。果して然らば、思想の險悪化も亦主として自利的個人主義に起因すると言へるのである。理想に憧憬れ、義侠心に富み、殺身仁を成すの氣分をもつて、

ノート

衣類の中は金銀をつかつたものは樟腦を入れると變色する。

明日の献立
【朝】なめものーつかみ
【書】にしめー茶せんなす
【晚】さしみー鯛煎皮作り
きうり わさび
みに指摘し、而して現代の救世主であると自稱して居るマルキシズムを紹介される勸説される場合には、忽ちそれに惹きつけられ、マルキストとなるのは寧ろ不幸なる自然の成り行きである様に思はる。その罪の大部分は政治の腐敗、實業の墮落、社會の缺陷、教育の不徹底、宗教の無力等に存するのであるが、之等各方面の缺陷の主因は矢張り自利的個人主義にあるとするならば、思想の險悪化は主として自利的個人主義の産物であると言ふべきである

旭硝子株式會社製品
板ガラス
硝子食器
其他各種
松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

諸橋外科醫院
醫學博士 諸橋 鐵彌
平町新川町廿七(電話四六四)
開業
入院室 完備
手術室 完備

【白】家内に不和を生じ婦人同志の口舌あると雖も金融はよし【黒】古きを捨て新企の志あるも家内圓滿を欠き中止となる病氣怪我注意【碧】離別死別の件に印形書附火災に注意、營業は繁昌す【四緑】火災、水難に注意して現狀維持する時は終り吉【五黄】病氣、怪我、家内不和の凶日なれば萬事に注意【六白】金融良く望事達せん吉日なれば長男長女の怪我が火事に注意【七赤】金談、縁談取引の奔走あるも何れも吉【八白】家内の病人か親戚の愁事か又は怪我盜難の患ひあれば注意【九紫】目上と金談に意見衝突あり又遠行の志起る日【米】上廻り【株】持合後場高

お醤油は... ヤマフル
醬油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町(電話營業部三釀造工場三)
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

魚食堂
電話 三三三番
肉蒲鉾
鹽豚
田町 三三三三屋

夏期休暇の プラン成る

各校夫々山に海に

磐中、平商、磐女は来る七月廿一日よりまた平各小學校は八月一日より夫々夏期休暇に入るが各校の休暇中のプランは左の如くである

△磐中

成績向上に關する補充授業、各學年への宿題、上級學校入學志願者に對する國語漢文數學英語の講習會、各種運動の練習

△平商

各學年への宿題、四五學年生の石城郡下に於ける産業調査、各種運動の練習

△磐女

各學年への宿題、海岸に於ける水泳の練習、各種運動の練習

△第一校

臨海學校、關井嶽登山野球、庭球、籠球の練習ラヂオ體操

△第二校

海濱學校

△第三校

海濱學校、山岳學校、夜間學校、早起會、ラヂオ體操、競技指導

千葉縣の沖合に

本郡鯉漁船密集

水揚相場は未だ高い

石城郡各濱の鯉漁船は目下千葉縣沖合に出漁中であるが昨十四日には江名町鯉漁船徳丸が千葉勝浦沖合五六哩の近海で鯉四千五百匹トノサ鮪三千本を漁獲して同日勝浦港に水揚げした旨江名漁業組合に通牒があつた尙同地の鯉水揚相場は一貫匁一圓八錢乃至一圓卅五錢の高値を見て居る

青年訓練會議

濱三郡下小學校長實業補習學校

郷土調査

平第二校で

平第二小學校では郷土文化の改善發展及び教育の參考資料として全職員が分擔して左の如く郷土の調査を行ふと

一 自然的現象に關する

方面
イ、地理 地勢 地質
ロ、理科 動物 植物

二 人文的事象に關する
方面
イ、郷土の歴史 沿革
神社 佛寺 人物

ロ、郷土の戸口 現在
人口 戸數 人口

戸數の動態 職業
人口分布状態

ハ、交通運輸 鐵道
道路 自動車 郵便局

ニ、郷土の教育宗教

兒童教育 青年教育
成人教育 新聞雜誌 社寺

ホ、郷土産業
平町に於ける産業
狀況及び物資集散
狀況とその取引先
石城郡各町村に於ける生産の狀況

ハ、郷土民の生活
衣食住 言語 風俗習慣 娛樂 休日 相互扶助の施設

ト、郷土の金融 金融機關 金利貯金

チ、其他保健衛生 各種團體の狀況

磐中保護者會の 評議員全部再選

既報磐中學校保護者會にては本日午前十時より磐中講堂に於て評議員會を開き今年度の豫算編成及び評議員の改選を行つたが全部左の如く再選した

(平)阿部政右衛門 坂本隆藏 酒井清 津田達造

柴田徳二 萩原義雄(内郷) 大内民恵 菅原萬治

郎 菅波忠治 佐藤一(夏井) 鈴木藤治郎 松崎

金松(好問) 猪狩濱治 小田吉次 高橋武雄(平窪)

田久藤七 木田源宗(四倉) 額賀毅 田仲岩次郎

(湯本) 篠原保治 楠正隆(小名濱) 小野晋平 遠藤

俊一郎 高木保(植田) 大平菊次郎 小宅嘉久治

(勿來) 赤津一 兒玉萬平

常設館

たより

第三週

□平、館、松竹時代劇市川右太衛門 大江美智子主演「願藏火事」日活現代劇

谷幹一 有明月子主演「芝濱の革財布」松竹蒲田

映畫オールサウンズ 林長二郎 高田浩吉 阪東好

太郎主演「陸軍大行進」

□世界館、新興時代劇市川玉太郎 淡路千代子主演

「血祭騎兵隊」新興映畫鈴木澄子 木村正二郎主演

「戀の双六」新興現代劇森静子 荒木稔主演「新祇

園小唄

平町人事

回出生

△十五丁目二六 吉田源七氏二女トメ子

△南町五二 古川萬治郎氏二男智久

△胡摩澤一〇〇 當地東京市蒲田區新宿町七三七 永山茂男氏二男稔

△南町二七 野崎原吉氏(三五)石城郡田人村字下ノ坪二緑川(三二)

△郡山市虎丸町五六 山崎茂樹氏(三八)堤ノ内九鈴木キヨ(二五)

△五丁目五 石川竹治郎(七七)

△回死 亡

選舉戰

初陣物語(八)

川崎 文治

△投票の當日になつても不安は未だ去らぬ、巷の噂では僕が依然として落選組に數へられて居る、最後の五分間といふが、今になつては、もうどうにもならない、僕は静かに觀念の眼を閉じた、敗けるにしても見苦しい狼狽振りを感じたくないと思つた、首を洗つて待つと云ふ事があるがセメテは伸び放題にして仕末する暇もなかつた髪の手入れも整へて置き度いと

夕食を済してから久し振りで床屋へ出掛けた。△開票場からの傳令は櫛の齒を引く様に自轉車で飛んで来る。事務所と開票場の間の連絡だけは、今考へても實に機敏に、小氣味よい程調子がよく整つて居た。是れ丈は自慢が出来ると思ふ。全く開票場の形勢が刻々居ながらにして手に取る様によく判つた。開票間もなく二三回目の傳令が齎した報告に依ると、意外にも僕が最高組に數へられて居るといふ。

△僕の最後の腹勘定では九十票は先づ獲得出来たらしい、故にヤット當選圈内にカデリ付いたかどうかといふ際どい處、此の内十票内外が目算外れにグラ付けば落選となるといふにあつたから到底樂觀を許せなかつたのだ。

△處が傳令の報告で高組の一人だとの事だから、僕はテンデ其報告を信じなかつた、嬉しがらせも程がある、當選確實なら確實だけではない、たゞ譯もなく高組だ等との嬉しがらせのデマを何故飛ばすんだ、其時は腹立しくさへ感ぜずに居られなかつた。

△問もなく「七八番の順位」「十番以内確實」「得票百廿票見當」等の傳令が矢張り早にやつて来る、ソレ見ろダン、順位が下つて来る。事務所には居た、まれば自宅に歸れば、心配して下さる方々からの問合せ電話が頻りで、電話係りの

二人が汗を流して居た。△「得票百六十七票、當選第二位！」と確實に判つた時には、嬉しさを通り越して殆んど無感覺の状態であつた「お目出度ふ」を浴せられて「成程ナ」と思つた、「萬歳々々」の歡呼の聲に「サウカナ」と感心した。

△今迄の難業苦業が酬ひられたんだ、百六十七票の大多數で當選第二位を獲得したんだ、どうだ嬉しからう？ 斯ふ自分自身の心に反問して見た、しかし其時の僕の頭は彈力を失つたゴムマリのやうに、何等の反應を示さない、ハハア俺は夢を見て居るのか……。

△「君體をツネツて見給へ夢じやない事がハッキリ判るから……」と涙ながらに云つてくれた人がある僕はコソコソ着物の上からツネツて見た、成程痛い……四邊の騒ぎに目を覺したらしい尋常二年生の負け嫌ひの倅が、ムクムクと蒲團の中から首を出した「お父さん！ 當選したノケ？」と聞く彼れのアカだらけの顔を見ると胸が一ツ杯になつた、タツター一人の坊子を湯に入れてやる事さへも忘れて今迄選舉に狂奔して居たのだつた……。

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院
平町南町
電一〇七

辯論賑ふ

昨日の疑獄公判

減刑論や無罪説等

昨報小名濱築港疑獄事件昨日の公判は小林検事の求刑あつて午後二時四十分より各辯護人の辯論に移り續行久保田擔當——安藤、増田安齊各辯護人は、

久保田は單獨で構木に對し三百圓或ひは千五百圓を贈賄したと檢事は論告されたが其の裏面に於ては馬目及び高木と相談の上行つたものであるから同人等と同罪で良い筈であり法規に依れば自首した者は減刑或は免除される事になつて居るから久保田を他の被告と同様罰金刑にして貰ひ度いと減刑論を述べ、

鈴木擔當——安齊、北川兩辯護人は、

請負者として大工事を請負度いのは人情であるが鈴木は養子である所から養父に對し信用を高める爲めと事業を擴張する爲め止むなく他より求めらるゝ儘犯罪を冒したものであると減刑論を述べ、

高木擔當——松野尾辯護人は、

高木は勞務出資に依る社員になつて居るが實際は久保田、馬目等の手先になつて働いて居ただけで共同正犯でなく何等關係

檢擧の手を

磐崎村に伸ばす

村議を始め十二名引致

既報平町の選舉違反事件が未だ終らぬ矢先平署では再び檢擧の手を伸ばし去月卅日に執行された磐崎村議員改選の當選村議某氏及び其關係者十二名を昨十四日夜本署に引致して目下嚴重取調中でその成行を注目されて居る

自動車隊に驚か

放馬前脚を折る

十四日午前八時頃東京世田ヶ谷陸軍自動車學校の自動車五臺が須賀川町より湯本町に向つて泉村宇小高地内縣道を進行中奔走し來つた放馬と衝突馬は前足二本を折つたので目下飼養者を調査中である

体操演習

月次運動會に

平第一小學校では来る二十九、三十の兩日月次運動會として全校兒童の體操演習會を催すべく目下準備中である

坑夫落盤絶命

石城郡湯本町字榎城居住入山炭礦坑夫谷平頼之介(○)は十三日午前十時廿分同礦第六坑内で作業中落盤の爲め重傷を負ひ炭礦病院に收容十四日午前八時絶命した

高久女青が

託兒所設置

石城郡高久村女子青年團では来る十九日午前九時より同村小學校に於いて農繁期中の託兒所設置の件に就いて協議すると



今晩も明日も北東の風晴曇半す

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
童話劇「慶念坊」巨匠子供會
後六、二五 英語講座 ト
マスライエル
後七、三〇 講演
後八、〇〇 萬歳「カフエー」漫景「砂川捨次外」
後八、二〇 長唄「綱目」唄

明日の部

前六、三〇 基礎英語講座
(三〇)岡倉由三郎
前九、一〇 料理献立「キ

農民學校

養蠶室焼く

石城郡錦村南中堅農民學

あるが委員は大和田、横田水竹、中村、松本、大谷、平塚の各訓導であると

校養蠶室より昨十四日午前一時頃發火し養蠶室及び校舎の一部を焼き午前零時半鎮火したが原因は蠶室暖爐からと見られ損害約一千圓である

老失業者二名が

平町役場に救済方願出

平町役場に本日午前十時頃二名の老人が旅費の貸與方を願出たが兩名は神奈川縣川崎市旭町生れ土石橋隆雄(五)及び茨城縣土浦町生れ金谷兼吉(五)で昨年川崎市の硝石工場を失業し北海道へ出稼したが老齢で相手にされず各地の役場市役所の世話で平迄たどり着いたものであると

東山から

佐渡ヶ島へ

鐵道の回遊團募集

石城郡湯本驛では來月五日より五日間の豫定で會津東山、新潟彌彦神社、佐渡ヶ島等の回遊團體員募集中であるが旅費は廿三圓廿六錢

放火事件言渡し

大和五平治に懲役三年

既報平町堤の内無職大和五平次(七)に對する放火事件の判決言渡しは本日午前十一時より平支部に於て中島判事係り關口、竹内兩判事陪席、小林檢事立會の下に

ヤベツ月華巻と敷あひかけ「小林忠雄」

前二、三〇 家庭講座

「女性の愛宮城縣女子專門學校教授鈴木ヨシ」

後六、〇〇 五「琵琶」威海衛」

半田錦崇

後二、〇〇 家庭大學講座

東大教授田邊忠男

後六、〇〇 子供の時間

唱歌 第一部(齊唱)秋田縣師範學校附屬小學校兒童

ピアノ伴奏庄司肇治

第二部(齊唱)宮城縣師範學校附屬小學校兒童

ピアノ伴奏佐藤千賀子

開廷されたが中島判事より懲役三年の言渡しがあつた

平職業紹介所報告

回人を求める方

△女中 十八才 高卒 月

五六圓(平町某)

△雜夫 二十三迄 月十圓

外面談(相馬郡某)

△農夫 習三十迄 月十三圓

外面談(豊間村某)

△靴工見習 十六才 尋卒

仕着小遣(平町某)

回職を求める方

△自動車修繕 工十六才

高卒 給料面談(内郷村某)

△事務員 四十一才 高卒

給料面談(内郷村某)

△土工夫 四十八才 尋卒

給料面談(内郷村某)

△鐵工見 十六才 高卒

給料面談(平窪村某)

△文撰工 二十一才 高卒

給料面談(平町某)

後六、二五 講演「古代奥州の黄金狂時代」藤原相之助

後七、三〇 講演「仙臺放送局開設五周年に際して」仙臺通信局長三宅秩一

後七、五〇 謠曲「杜若」シテ後藤文吾 地澤口政之助 同滋谷豊吉

後八、一〇 長唄 新曲「伊達姿江都錦繪」唄時榮

萬奴、信子、里千代外

後八、五〇 浪花節「近世遊俠傳」第二席 小金井太郎

三井タクシ

番五八六話電 目丁二町平

助手募集!

一冊の代金で

御希望通りな

五冊の雑誌が

自由に讀める

川崎巡回文庫

電六三〇番

申込次第(規則書進呈)

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第三百六十五席 物外と近藤勇
歳三本梅と立合ふ

こゝは本所龜澤町小谷下
總守の邸玄關へ立つた近藤
勝太に沖田總司、佐藤彦五
郎、土方歳三の四人、案内
を乞ふと取次の者が出て來
て

○「何れからお出になりま
した」

近「我々共は半込二十騎町
に道場を開き居る近藤周助
の門人にござるが、下總守
殿と御手合せ致し度く推參
いたした、此事宜しくお取
次ぎください」

と云ひつゝ名札を差し出
した、取次はそれを持つて
道場に來て武者溜に居る下
總守に此の事を告げ、なほ
又名札を出して

取「追ひ返しませうか、失
禮な奴でございます、殿様
にお手合せを致したいいなぞ
とは不埒至ごく」

と云つた時に下總守が
下「イヤ／＼わざ／＼出て
來た者である、試合を致さ
ずに戻すはよろしくない、
俺と手合せを致したいと申
す上は多少出來る者であら
う、こちらへ通せ」

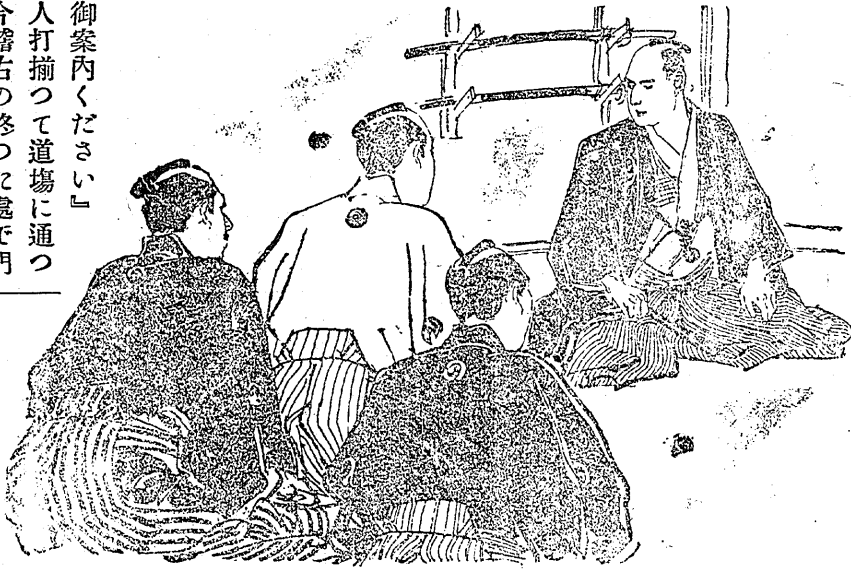
取「長まりました」
これから玄關へ出て
取「此方へお通りください

近「お手合せをなさるか」
○「試合を致す由」
近「それは千萬かたじけな
い、實は門前から追ひ拂は
れるかと存じて居たが手合
せを致されるとはありがた
まし」

此處へ此處へ」
と武者溜の壘を鐵扇でバ
タ／＼と叩いた、そこで三
人はそれへ上る
下「名札に依つて姓名は判
つたが、半込の近藤の門人
だとな、近藤は理心流劍法
の達人だ、それに教へを受
けたとあらば定めし出來る
であらう、此三人の中で近
藤勝太と云ふは何れだ」

下「ア、さうか、どかたで
はなかつたかアハ……」
と笑つたが
下「劍術は出來るか」
土「武士一人前の心得はご
ざる」
下「夫はえらい、武士一人
前の心得があれば立派な者
そこで當道場の掟として試
合にまゐつた者には先づ門
人を出してその腕を試みる
事にいたしました、其れを打
ち込む程の技があれば俺が
出て相手をしてやる」

土「しからば御門人をお差
し出してください」
下「これ／＼本梅、貴様出
て見ろ」
云はれて此の道場で代稽
古をいたし居る本梅縫之助
が
縫「承知いたしました、さ
あお三人お支度をなさい」
と申した時に近藤が豫ね
て話に聞いて居たが小谷の
門人にて本梅は頗る大刀筋
がするどいとのこと、先づ
最初はいつを打ち込んで
腕を見せてやらうと
近「拙者がお立合ひ申す」
と云つた時に土方が
土「待て／＼俺が出てやる
本梅氏土方歳三お相手を致
す」
云ひながら武者だまりを
下り、これから衣類を脱ぎ
持參した稽古着を着し、そ
れに道具をつけて竹刀を持
つて道場の中央に出る、本
梅縫之助も同じく道具をつ
け、互に右の膝を折つて駄
禮いたしたが
本「イヤ」
土「御免を蒙る」



い、御案内ください」
三人打揃つて道場に通つ
た、今稽古の終つた處で門
弟は七八人ゐたが、汗をぬ
ぐひ茶をのんでゐた、時に
下總守は入り來る三人を見
て

土「手前こゝはヒジカタ歳
三と申します」

土「御免を蒙る」

鯉節漬 焼にか鹽 魚問屋

店理代平命生本日本大最優最
榮盛賀丁四平
(三一電)目丁四平

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める

川崎巡 回文庫
電六三〇番
申込次第(規則書進呈)

吉田眼科病院

平針町、電話六八番

玉屋洋品店
平町、電話六五六番

磐城共濟病院

電話(一四四)番

内科	外科	小兒科	皮膚性病科	産婦人科	耳鼻咽喉科	X線科	物理療法科	衛生試験所	藥局
院長 石山謙郎	醫學博士 佐久間粹郎	醫學博士 有馬勇二郎	醫學博士 近日着任	醫學博士 有馬勇二郎	醫學博士 石山謙郎	技術員 高藤慶造	技術員 吉本孝平	藥劑師 鈴木山實	事務長 鈴木山實